

在日華人の論争

二年前、友人と一緒に小さいフォーラム「在日華人論壇」を設立した。中国大陆と台湾出身の十数人の方々が論壇に参加し、毎月一回のペースで開かれている。論争のテーマは主に中国の社会・文化、あるいは日中関係の話題である。

今月のテーマは、台湾が独立せず、また統一せずに現状を維持するのは、海峡兩岸の民衆にとって最適な選択かということである。この論点で現状維持に反対するのは台湾出身の譚さんである。彼女は、台湾はもともと独立国家であるから猶予なく直ちに独立するのが最適な選択であると持論を展開した。これに対して、中国大陆出身の吉さんは譚さんの論点に真正面から反対した。彼は、今、中国大陆と台湾の力の差は歴然であるから、独立などという話は非常識、非現実的なことであると主

張した。

譚さんは自身の台湾についての認識を皆に紹介した。彼女の両親は中国大陆の出身で、前世紀の四十年代に台湾に移住した。彼女は、少女時代からずっと自分自身は中国人であると教育されてきた。しかし、近年、彼女は、台湾の歴史・文化等の書籍を沢山読み、知らずしらずのうちに台湾に対する認識は百八十度変化し、国民党の支持者から民進党の支持者に変身した。去年の年

台湾独立



末に自費で台湾に帰り、今回、台湾大統領（総統）に当選した蔡英文氏の応援活動に身を投じた。彼女は、台湾人と民主・自由の価値観を共有するアメリカ・日本に親しみを感じ、一方同じ民族の中国大陆に対して、その独裁・強硬なやり方を嫌悪すると断言した。

譚さんの意見に対して中国大陆出身の夏さんは、台湾の人々の感情は理解できるが、政治は気持ちの問題ではなく、あくまで結果論で、もし台湾が一方的に独立を宣言したら中国の台湾進攻は不可避だという反対の意見を述べた。他の中国大陆の出身者は、もし戦争状態に陥ったら台湾人、大陸人、あるいは世界の人々にとって大きな損害になることに間違いのないから、台湾独立の論調は慎むべきだという論点を展開した。

あつという間に一時間半の時間が過ぎ、参加者はいろいろな意見を述べあつた。論争に最終的な結論は出なかったが、在日華人の異文化交流の目的は十分に果たしたと思う。